

ジェンダー研究所主催講演会

日時：2024年1月9日（火）10：40～12：20

（講演時間 45 分、質疑応答 25 分、フリーディスカッション 30 分）

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 14 号館 6 階 604 教室

講師：菅野琴氏（元 UNESCO 職員/カトマンズ事務所長、（独）国立女性教育会館客員研究員）

題名：「国際社会のジェンダー平等政策とその実状：日本とネパールのジェンダー平等と教育機会均等のパラドクス」

司会・討論：鈴木 規子（早稲田大学社会科学総合学術院教授、ジェンダー研究所所員）

国際社会は、国連憲章、世界人権宣言で謳われているように人類の尊厳、平等で譲ることのできない権利や、持続可能な社会の実現のための必要な条件の一つとしてジェンダー平等をその優先的政策として掲げている。

過去二十数年間、女子・女性の教育への参加は飛躍的に伸び、世界の多くの国で全教育レベルの就学率は男女間格差が 1%以下となった。しかし、教育界全体やある地域を詳しく見ると、ジェンダー不平等は明らかに残っている。また、政治、経済におけるジェンダー平等への進歩は遅く、そのパラドクスの状況は、いわゆる先進国の日本にも、開発途上国ネパールにも同様に見られる。

教育におけるジェンダー平等は、社会一般のジェンダー平等が進まなければ、達成できないとも言われる。しかし、それをただ待つことなく、教育におけるジェンダー平等が、教育の質的転換を成し遂げ、パラドクスの状況を克服できるか、そのためには高度な政治的コミットメントを得ることが鍵となる。日本やネパールの実状を精査しながら、みなさんと共に考え、論じる機会としたい。

講師紹介：菅野 琴（かんの こと）

（独）国立女性教育会館客員研究員、元関西学院大学総合政策学部特別客員教授、元お茶ノ水女子大学ジェンダー研究センター客員研究員。

1982年トロント大学社会学博士課程よりユネスコ就職。ユネスコアジア太平洋地域事務所（バンコク）社会人文科学課アソシエート エクスパート、及びユネスコ本部信託基金課を経て、教育局基礎教育部国連女子教育担当専門官として、教育局ジェンダーフォーカルポイントとなる。2003-07年駐ネパールユネスコ代表カトマンズ所長。2007年退職。ユネスコ時代から現在まで通して教育におけるジェンダー平等達成の課題に取り組む。